◎　栄養部門事業報告書

1　行事および内容

（1）　研究委員会

第１回　令和元年８月２６日（月）研究会に向けて指導案検討（本渡中学校）

第２回　令和２年２月　４日（火）年間反省とまとめ（教育会館）

（2）　研修会

ア　内容

授業研究会

令和元年１０月２９日（火）天草市立本渡中学校

第１学年５組　家庭科

「バランスのよい食事について考えよう」

授業者　　Ｔ１　濱洲　和代　教諭

　　Ｔ２　松下　美紀　栄養教諭

指導助言　天草市立牛深中学校　校長　野嶋　逸朗　先生

事後研　　授業研究会

　　指導助言

　　まとめ

参加者数　栄養教諭・学校栄養職員１３名、教諭２名、その他２名　　計　１７名

イ　指導助言

①現代は、栄養の偏り、不規則な食事、生活習慣病の増加、肥満と過度の痩身等、様々な課題がある。第３次食育推進基本計画の学校で取り組むべき施策には、食に関する指導の充実、学校給食の充実、食育を通じた健康状態の改善等の推進があり、それに向けて取り組んでいかなければならない。

②栄養教諭の職務は食に関する指導と学校給食の管理があり、これらを一体のものとして行うことにより教育上の高い相乗効果をもたらす。食に関する指導とは、学校教育活動全体を通じて行う食育であり、日々の給食指導が食に関する指導の土台となる。特別な指導ではない。

③教科等における食に関する指導の評価は、各教科等の三つの資質・能力の育成を目指すことを目的として、６つ食育の視点を位置づけることとなっている。本日の授業の視点は食品を選択する能力である。

④教科等における食に関する指導では、様々な場面で栄養教諭が T2 として関わることができ、Ｔ２として果たす役割はとても大きい。TT による学習効果を高めるポイントや学習形態等も考慮しながら各学校で栄養教諭の積極的な活用が望まれる。そのためには自らの働きかけも大切になる。

⑤本時の授業では、導入で TT 同士の掛け合いがあってもよかったが、授業中 TT 同士の情報共有ができており、T2 としての専門的な役割が果たせていた。T1 とのミーティングにより授業のバリエーションを深めていってほしい。

2　来年度への志向

①今年度も計画通りに進めることができたので、次年度も１学期中に学年、教科・単元を決定しておく。

②研究委員会で指導案検討を行う。

③授業研究会の会場校とは、計画案を基に事前の打ち合わせをしっかり行う。

④研究授業を行う場合は、栄養教諭単独ではできないので、学級担任や教科担当との連携が必要である。研究授業実施校の校長先生のご理解とご協力に感謝している。